

発行 愛媛県糖尿病協会 代表者 森田 哲司
〒791-0295 東温市志津川
愛媛大学大学院医学系研究科糖尿病内科内

糖尿病と腎代替療法

糖尿病性腎症が進行し、浮腫のコントロールが難しくなったり、(腎性)貧血が悪化したり、食欲低下や嘔気等の尿毒症が出てくると、いよいよ腎代替療法が必要になります。今回は3つの腎代替療法についてお話させていただきますが、事前に知識を習得しておくことで個々の患者さんにとって最も適した治療法を選択することが可能になります。

1. 腎移植

腎機能の保たれたドナーから片方の腎臓を提供してもらう治療です。提供された腎臓が倍近く働いてくれるため、腎機能はほぼ正常となります。透析では老廃物の除去しかできないことを考えると、様々な機能の回復する腎移植は最も体に優しい治療と言えます。

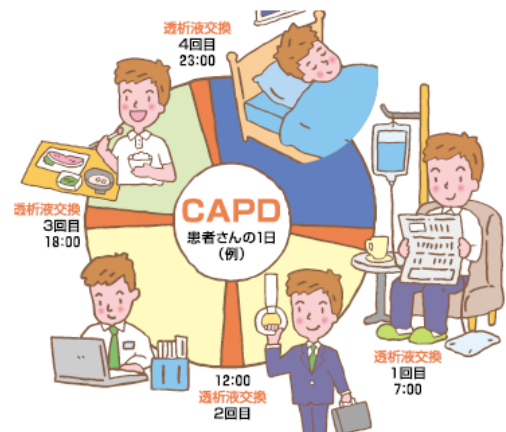
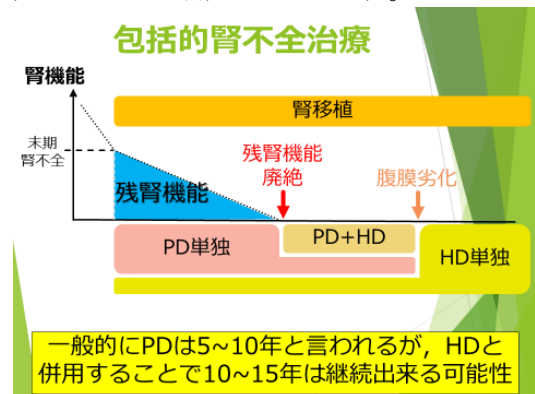
脳死心停止した患者から提供を受ける献腎移植、親族から提供を受ける生体腎移植があります。日本では腎移植が年間約1500件施行されていますが、献腎移植のドナー不足の為、約9割が生体腎移植です。ドナーの条件は6親等以内の血族、3親等以内の姻族(配偶者側の血族)であることが前提で、年齢は20歳~70歳程度まで、感染症や悪性腫瘍が無いこと、肥満でないこと、高血圧や糖尿病があっても管理が良くて顕性の蛋白尿を認めないこと等が挙げられます。血液型は必ずしも一致する必要はありません。

腎臓を提供された患者さんは免疫抑制剤を一生内服し続ける為、感染症には注意が必要ですが、移植後に10年以上生存される患者さんは9割を超え、5年以上腎機能が保たれる患者さんも9割以上で、今後更に治療成績が改善すると予想されます。

1型糖尿病で腎不全となった場合には膵腎移植も選択肢になります。膵臓は脳死の患者さんからの提供となる為、生体腎移植を受けた後に膵臓の提供を待つか、透析を受けつつ膵腎同時提供を待つかのいずれかになります。平均待期期間は献腎移植の約15年に比べ、膵臓(+腎)移植では4年弱と短いのが特徴です。

2. 腹膜透析 (peritoneal dialysis ; PD)

PDは腹部にカテーテルを留置し、透析液を腹腔内に数時間貯留して定期的に液交換することで老廃物を体外に排泄する治療法です。手動で交換するCAPDと夜間機械を繋いで交換するAPDがあります。通院回数が月に1~2回と少ないこと、カリウム制限がほぼ不要であること、尿量が比較的長期に保たれ



ること等がメリットとされています。日本では全透析患者さんの約3%しか行われていませんが、理由として、出来る施設が限られていて十分な情報提供がなされていないこと、血液透析施設が多く通院に困らないこと、腹膜が劣化しPD単独で10年以上の長期継続が困難なこと等が挙げられます。最近では腹膜保護や体液過剰の管理の為に週1回血液透析を併用するハイブリッド透析も保険で認められ、増加してきています。

PDの他のメリットとして血圧や体調の変動が無いこと、心臓への負荷が少ないこと、肝硬変を合併した患者さんで腹水コントロールがやり易いこと、体格が小さく食事摂取量が少ない患者さんでは液交換回数を減らしたり腹膜休息日を設けたりすることでQOLを保つことが出来ること等が挙げられます。



3. 血液透析 (hemodialysis ; HD)

週3回通院し、1回4時間程かけて血液から老廃物を除去する治療です。十分な血流を確保する為にバスキュラーアクセス手術（シャント、人工血管、動脈表在化、カテーテル留置のいずれか）が必要です。PDと異なり水分やリンの除去が確実に出来る反面、短時間での治療となる為、血圧や体調が変動することも少なくありません。ADLが低下した患者さんに対して送迎を行っているHD施設も増えていますが、働いている患者さんに対しては夜間透析という選択肢もあります。

安定して長期にHDを継続するには塩分-水分、カリウム、リン制限が重要になります。

最後に

尿毒症が出現するまで「透析の話は聞きたくない」と言われる患者さんも少なくありませんが、尿毒症が出てからでは腎代替療法に関する十分な知識習得の時間、ご家族との話し合いの時間が確保できません。結果的に腎移植やPDの情報を知らないままHDを受けている患者さんも少なくありません。長い透析人生ですので、患者さん自身が納得した上で最も適した治療法を選択することが重要です。その為には医療スタッフも十分な情報提供を行えることが重要です。

(松山赤十字病院 腎臓内科 岡英明先生)

今回の愛糖協ニュースはNo62に引き続き『糖尿病性腎症予防』に関する取り組みとして松山赤十字病院の腎臓内科 岡英明先生に御執筆を頂きました。6月25日の総会に向けていつもより早く愛糖協ニュースをお届けさせていただきました。総会では「糖尿病性腎症予防」の実践活動について、市立八幡浜総合病院の酒井武則先生と管理栄養士の井上貴美子先生に講演をお願いしています。皆様のご参加をおまちしております。

事務局からのお知らせとお願い

★住所変更や所属変更等、個人情報に変更があった場合は必ず事務局までご連絡ください。
(郵便物はメール便で送付させていただいているため、転居されると転送されず届かなくなります) 連絡先：FAX：089-960-5400 またはメール：aitoukyou@gmail.com。
事務局は常駐ではないため返答にお時間を頂くことをご了承ください。